



Stars, Moons, and Suns (pacific world) 星たちと月たちと太陽たちと(穏やかな世界)
2012
ドローイング・インスタレーション(紙にオイルパステル、ライトボックス)
51x72 cm

ブエノスアイレスでの国際的なレジデンスプログラムに参加中、アーティストはその日常生活の中で、通りに落ちているさまざまな色に染まった秋の葉やモスクのミナレット塔の先を飾る三日月、アルゼンチン版クロワッサンであるメディアルナなど、さまざまな「星」や「月」と出合った。また半年近いラテンアメリカで過ごし、世界に対する観点や、どこがその中心であると考えるかといった点について自問し始めた。

世界共通ではない世界地図

そして日本で子供用に作られた世界地図に介入することに。その日本政府が国と認識している国々のみが色とりどりに示された地図においては、領地に関する紛争のある地域などは白く残されたままである。また西洋で用いられる世界地図とは違い、太平洋を中心に据え、地図の余白にはそれらの認識された国々の国旗が描かれている。その国旗の中にはいくつもの太陽や月や星が描かれている。

先入観を埋める

この地図のすべての表面を黒いオイルパステルで塗りつぶし、太陽や月や星の描かれた国旗を持つ国々のある地図上の場所を、その数だけ表面を引っ掻くスグラフィート技法で描いていった。例えばアルゼンチンなら36の襲がある太陽、トルコなら一つの五角星と三日月といったように。

地を露(あらわ)に

その介入された世界地図は、天体図、もしくは空から夜の地球を見下ろしたように見えるかもしれない。国境や政治的・宗教的な紛争をも映さない、ただ普遍的なシンボルだけを含んだ図となった。



(左頁)地図に手を加えたもので、スグラフィートの技術を使ったドローイング全体(右頁、上から)作品の支持体となる、学校の児童のために日本で製造された世界地図; 床置きライトボックスの明るい光に照らされた、手を加えた地図

